

医療・福祉

薬だつ知識

96

学校薬剤師は、担当校で水質や空気など環境衛生に関する検査をするほか、薬物乱用防止教室も開いています。日本では今、「薬物乱用の欧米化が加速している」と言われています。その代表格が大麻です。インターネット上では「大麻は安全で体に害はない」「大麻は合法」「大麻に依存性はない」など誤った情報が散見されます。

警察庁のまとめでは、2024年に大麻事犯で検挙された全国の10代の数は、5年前と比べて約2倍に増え、大麻に対する有害性・危険性の認識の希薄化が進んでいます。

薬物乱用防止教室

正しい知識の普及を図る

大麻には大きく分けて二つの成分があります。一つはテトラヒドロカンナビノール（THC）で、一部の国で多



高校で開かれた薬物乱用防止教室

快感を得るための嗜好品として用いられています。しかしパニック発作や記憶障害などを引き起こし、依存性もあることから日本では規制の対象です。もう一つはカンナビジオール（CBD）で、欧米の国々ではてんかんやがんの痛みの治療薬としての有用性が実証されています。日本でも23年にCBDを医療に活用できるよう大麻取締法の改正がありました。

この2成分の混同が誤情報を生む要因の一つです。リラックス効果をうたう市販のCBD製品は、THCを一定量以上含むことがあり、所持するだけで刑罰対象となり、注意が必要です。

青少年期は好奇心旺盛で、危険なものに「試したい」と思うものです。しかし成長段階の脳と体は、成人よりも大きなダメージを受けます。薬物乱用防止教室は、好奇心に負けない正しい薬の知識の普及を目的とした活動なのです。（鹿児島県薬剤師会学校保健公衆衛生委員・持留隆伸）

令和7年11月4日
96．薬物乱用防止教室